キャラクター名
梧　牡丹（あおぎり　ぼたん）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ブラム＝ストーカー	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	傭兵
オプショナル		年齢	15～16歳	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	飢餓	初期侵食率	39 %
出自	偽りの家族	経験	幸せのひととき	邂逅	勧誘

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	39
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
妖刀	白兵	4r+8	4	10		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	
コネ：情報屋	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
復讐者	P	N		
梧　蕾（あおぎり　つぼみ）	P　懐旧	N　悔悟		
妹を殺した男	P　執着	N　憎悪		
ローラ	P　庇護	N　嫌気		
速水　一羽	P 連帯感	N 無関心		
白砂順	P 親近感	N　嫌悪		
ミスター工藤	P　信頼	N　脅威		

最大財産P:　2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果：衝動判定ダイス+[Lv]個、侵蝕率基本値+5								
異形の刻印	2		常時	至近	自身	自動		
効果：最大HP+[Lv*5]、侵蝕率基本値+3								
オリジン：サイバー	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：シーン間【社会】判定達成値+[Lv*2]								
コンセントレイト：	3	2	メジャー					
効果：C値-[Lv](下限値7)								
オールレンジ	3	2	メジャー	武器		対決		
効果：判定ダイス+[Lv]個								
呪われし者の印	5	3	オート	至近	自身	自動		
効果：判定直前に使用、その判定におけるダイス減少無効、シナリオ[Lv]回								
流刑者の刻印	1	3	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果：《呪われし者の印》使用直後に使用、HP[Lv*10]点回復								
災いの魔剣	3	2D10	メジャー	武器	単体	対決	100↑	
効果：HPを残り1点まで失い、組み合わせた攻撃の攻撃力に+[失ったHP（最大Lv*10点）]する、シナリオ1回								
ジャイアントグロウス	1	5	メジャー	武器	範囲（選択）	対決	100↑	
効果：組み合わせた攻撃の対象を範囲（選択）に変更、攻撃力+2D、シナリオ[Lv]回								
かぐわしき鮮血	★							
効果：								
鍵いらずの歩み	★							
効果：								
効果：								
効果：								

【人物】
パっと見は、どこにでもいる少女
時折見せるのは、歴戦の傭兵を思わせる冷徹さ
そして、その二つの間からチラチラと垣間見えるのはドロドロと煮えたぎる溶けた鉄の如き激情
それら3つの矛盾する印象が、不思議と矛盾なく同居している少女
一体どれが本当の彼女なのか、彼女自身にも分かっていない

【経歴】
元々はとあるプログラマーが彼の娘のために用意した情操教育用高度相互コミュニケーションAIと呼ばれる代物
要するに、幼い子供とコミュニケーションをとることで、相互に成長する（させる）人口知能の一種であった
シングルファーザーの家庭で、余り家に帰れない父親、お手伝いさんはいるものの家では孤独に過ごす少女にとって、それは例えAIであっても、確かに妹であり家族であった
互いに成長しながら、順調に育っていった二人
傍から見たら不幸だったかもしれない、しかし、当の二人にとっては紛れもなく幸福な時間だったのだ
そんな幸福が崩壊したのは少女が16歳になった頃、少女と『彼女』が出会ってから12年が経った頃のことだった
突如、家に押し入ってきた男に少女が殺されたのだ
余りにも突然のことだった
理由も、前触れもなく、ただ災害のごとく少女の命を奪い、その男は消えた
肉体を持たない『彼女』は、ただ端末のカメラ越しにその光景を見ているしかなかった
目の前で最愛の姉を殺された衝撃から立ち直り、まず最初に覚えたのは怒りだった
姉の命を奪った男に対する憎悪、そして何より、見ているしかできなかった自分への、焼けつくような憤怒
その憤怒を引き金として目覚めた力を使い、辺りに散らばる最愛の人の血を糧として、『彼女』は肉体を作り上げる